【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成21年2月19日(2009.2.19)

【公表番号】特表2008-525127(P2008-525127A)
【公表日】平成20年7月17日(2008.7.17)
【年通号数】公開・登録公報2008-028
【出願番号】特願2007-548591(P2007-548591)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ　25/01　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　25/00　　４５０Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月18日(2008.12.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
生体管路などの体腔にアクセスするための医用デバイスにおいて、
先端を有するデリバリー・シースと、
前記デリバリー・シースの中に装填され、前記デリバリー・シースの前記先端から展開される封止用のパッチとを備え、
前記パッチにはニードルを貫通させて挿通することのできる開口が形成されており、または、前記パッチはニードルを穿刺することでそのニードルを貫通させることが可能に構成されており、
前記ニードルは前記デリバリー・シースの中に摺動可能に配設されており、前記パッチは初期状態において前記ニードルと前記デリバリー・シースの前記先端との間に装填されており、前記ニードルを前記デリバリー・シースの先端側へ進めることによって、前記ニードルが、前記パッチを貫通し、前記デリバリー・シースの前記先端から突出し、そして生体組織に、形成後にそこを通して処置デバイスを挿入することのできる前記体腔に通じる切開部を形成するようにしてある、
ことを特徴とする医用デバイス。
【請求項２】
前記パッチが生体吸収性材料から成ることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項３】
前記パッチが粘着性材料から成り、または、前記パッチが粘着層を備えることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項４】
前記パッチが自己封止性を備えていて前記処置デバイスが抜去されたときに前記開口を封止するようにしてあることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項５】
前記パッチが自己封止性ゲル材料から成ることを特徴とする請求項４記載の医用デバイス。
【請求項６】
前記パッチが血栓形成促進剤または凝血促進剤を含有していることを特徴とする請求項４記載の医用デバイス。

【請求項７】
前記パッチの前記開口が加熱封止性を有することを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項８】
前記パッチが発熱体を備えていることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項９】
前記パッチが前記開口の近傍に加熱封止性材料を備えており、前記発熱体が前記加熱封止性材料を加熱することで前記開口を封止するようにしてあることを特徴とする請求項８記載の医用デバイス。
【請求項１０】
前記パッチには予め開口が形成されており、前記パッチは該開口を封止するための封止機構を備えており、該封止機構は、形状記憶合金、超弾性ニチノール製封止部材、電気駆動型ポリマー、バッキー・ペーパー、マイクロエレクトロメカニカル封止機構、またはそれらの組合せから成るグループから選択されたものであることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項１１】
前記開口には、該開口の第１部分に沿って画成された突起と、前記突起が係合する該開口の第２部分に沿って画成された凹部とが形成されており、前記突起を前記凹部に係合させることによって、該開口の少なくとも一部が封止されるようにしてあることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項１２】
前記パッチは、前記開口の周囲領域に設けられた、フックとループとで構成された複数のファスナを備えており、フックとループとで構成されたそれら複数のファスナによって前記開口が封止されるようにしてあることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。
【請求項１３】
更に流動性媒体を備えており、該流動性媒体は、前記パッチの展開が行われる前の状態では、前記デリバリー・シースの中の、前記パッチより前記デリバリー・シースの基端側に装填されていることを特徴とする請求項１記載の医用デバイス。